

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 27 年度第 2 回茨木市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	平成 27 年 9 月 30 日 (水) 午後 2 時 00 分 開会・午後 4 時 00 分 閉会
開 催 場 所	環境衛生センター 会議室
会 長	小幡 範雄
出 席 者	小幡 範雄、川口 美加、堂脇 末雄、冨田 清香、三好 信明、三上 雅弘、 田中 サオリ、福田 榮三、竹原 篤子、矢野 正、嶋本 佳世 (11 人)
欠 席 者	原田 智代、渡辺 信久 (2 人)
傍 聴 人	3 人
市	西林産業環境部長、上田建設部長、神谷産業環境部次長兼資源循環課長、 中井建設部次長兼下水道総務課長、酒井環境事業課長、上村環境衛生センター所長、 中野環境事業課主幹兼業務係長、松野下水道総務課計画係長、 千品資源循環課計画係長、浅井、竹國 (11 人)
議 題 (案 件)	1 開会 環境衛生センター 見学 2 出席者の報告 (会議の成立) について 3 議題 基本計画 (案) 第 1 章、第 2 章、第 3 章について 4 第 3 回審議会の開催日程について 5 閉会
配 布 資 料	1 茨木市一般廃棄物処理基本計画 (案) 2 ごみの将来推計と目標値について

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
議 長	<p>1 開会</p> <p>2 出席者の報告（会議の成立）について</p> <p>審議会の開会にあたり、審議会委員の出席状況について、事務局から報告をお願いする。</p>
事 務 局	<p>審議会委員の出席状況は、総数 13 名のうち、出席者 11 名、欠席者 2 名である。</p>
議 長	<p>事務局からの報告のとおり過半数の出席であるので、この審議会は成立している。なお、この審議会は、前回の審議会で公開との決定をもらっており今回も公開とする。</p> <p>傍聴者がいれば入室を許可する。</p> <p>(傍聴者 入室)</p>
議 長	<p>3 議題 「基本計画（案）第 1 章、第 2 章、第 3 章について」</p> <p>それでは今日の議題だが、第 1 章、第 2 章、第 3 章について審議をしていきたい。まず章ごとに皆の意見を伺いたい。この部分をこのように修正した方がよい、あるいはこれを付け加えた方がよい等の意見があればお願いします。</p> <p>この計画の趣旨は、一般廃棄物をどのようにしてこれから処理していくかという流れを考えていくということである。また位置づけ、将来像については、第 5 次茨木市総合計画と茨木市環境基本計画の中にあって、それを踏まえて策定することになる。</p> <p>計画のフレームとしては、平成 37 年度を目標とする 10 年計画とするということである。</p> <p>まず、この第 1 章について意見等があれば伺いたい。</p>
A 委 員	<p>1 ページの 2 行目「大量生産・大量消費・大量廃棄」から「その結果、多くのエネルギーを使い」と文章が流れて 3 行目の「廃棄物の問題は、天然資源の消費を抑制しつつ」と繋がるので、文言としては、ここはエネルギーの前に資源なのではないか。もしくは「多くのエネルギーを使い」ではなく「資源を使い」の方が適切ではないか。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
議 長	「大量生産・大量消費」に加え、更にエネルギーを消費してということであり、資源とは「大量生産・大量消費」に関わる言葉であると思われるが、それを使うために、あるいは生産するために、またエネルギーを使っていると解釈できるが、もう一度説明をお願いします。
A 委 員	議長の発言どおりで、もちろん資源を用いてエネルギーを生成していることは理解できるが、この流れからいうと、資源を使ってかつエネルギーも使うということで資源という言葉が明記した方がわかりやすいのではないかとのことである。
議 長	大量生産し、大量廃棄しているというのは、資源とエネルギーを合わせて使っているということであり、その結果多くの資源及びエネルギーを使用し、温暖化を招いているということで、資源という言葉を入れることでよいか。 事務局の考えはどうか。
事 務 局	後ろの文章との繋がりではそのようにも取れるかと思うが、「大量生産・大量消費・大量廃棄を続けてきました。」で一旦文章を閉じており、それに続く「多くのエネルギーを使い」というのは、廃棄物の処理のことだと考えている。 処理場関係で消費されるエネルギーのことで、廃棄物は地球温暖化を招いて最終処分場を逼迫させているとの流れになっており、生産・消費に係るエネルギーと、このエネルギーとは違う意味で記載している。
A 委 員	それは労力的なエネルギーという意味合いか。
事 務 局	ここでは、コークス等の化石燃料を使って大量のエネルギーを消費し、その結果CO ₂ を大量に発生させていることによって、地球温暖化を加速させているが、「大量生産・大量消費・大量廃棄を続けてきました。」とは、なぜそのエネルギーを使わなければならないのかを記載しているものである。
A 委 員	エネルギーを使うというのは、エネルギーを作る前段階があり、それが資源なのではないか。
事 務 局	エネルギー自体は資源だが、ここでいうエネルギーは地球温暖化を招くという意味のものであるから、資源という言葉を使うと、大量生産、大量消費に係る資源とエネルギーの元となる資源とが分かりにくくなると思う。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
A 委 員	化石燃料も資源に入るので、それについては同じ印象ではないか。
事 務 局	化石燃料ということではなく、廃棄物の処理が地球温暖化を招いているということに記載しているが、表現については検討する。
A 委 員	3行目の「天然資源の消費」に繋げるにあたって、1行目に資源的なものがある、2行目でエネルギーが飛躍して、3行目にもう一度資源という言葉が出てくるので、2行目のエネルギーの前に資源という言葉を一気に入っていかないと誤解を招きやすいのではないかという印象がある。
議 長	事務局の説明では、このエネルギーというのは「大量生産・大量廃棄」の結果、廃棄物の処理にエネルギーを使っているとのことであった。とにかく資源やエネルギーを使っているということに違いはないが、廃棄物の処理のためなのか、大量生産、大量消費に繋がる日常生活なのか、また天然資源の中にエネルギーも入るのか、入らないのかということでは、私は入ると思うが、ここは導入の部分なので、しっかり整合性を取ってやっていきたいと思う。 事務局で、さらに検討をしてもらおうということによいか。
事 務 局	1行目、3行目と合わせて調整する。
議 長	次の2ページ、計画の位置付けだが、関係法令と第5次茨木市総合計画及び茨木市環境基本計画等を図で示している。 また、目標年次は37年ということである。 第1章については、エネルギー及び資源の表現について事務局において検討するということによいか。 もし何かあればまた第1章に戻ることとし、第2章に進める。 第2章は、茨木市の概要ということで、自然環境と社会環境の記載があり、8ページ、9ページでは推定人口の見込みを記載している。 推定人口の見込み等、あるいは社会環境についても、これを入れたほうが良いということがあればお願いしたいがなにかあるか。 9ページのところの将来の推定人口についてだが、これは茨木市の将来推計人口の報告書から引用しているものであり、別途検討がされて1万人くらい減少すると見込んでいるということである。 ここもこれでよいか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>よければ、これから本題のところである第3章に入っていくこととする。</p> <p>まず、10ページについては、ごみを取り巻く社会情勢ということで、関係法令及び関連計画を記載している。</p> <p>それぞれ目標値が決まっており、11ページに、まず第3次の循環型社会形成推進基本計画では、1人当たりの家庭系のごみの排出量が25%減、事業系のごみが35%減となっている。</p> <p>次に基本方針だが、排出量とか再生利用率、最終処分量の目標値等が決まっているということである。</p> <p>12ページには、大阪府の循環型社会推進計画について記載しているが、これは排出量を27年度目標として18%下げるとしており、再生利用率は18%から29%に向上させる、また、最終処分量については、平成27年度には30%減という計画になっているということである。</p> <p>これらをベースに個々の計画を立てていくことになる。</p> <p>13ページにはごみの処理のフローを、14ページにはごみの分別区分を記載している。</p> <p>15ページからは、ごみの減量化再生資源化の状況について、項目ごとに課題を記載している。</p> <p>19ページ、20ページにはごみの排出量の推移が記載されており、ごみの排出量が順調に減少していることが分かる。</p> <p>21ページの再資源化の状況については、家庭系のごみが減少するということは非常に良いのだが、なぜか再資源化も減少している。</p> <p>ごみの総量が減少することによって、その中に含まれる再資源化が可能なものも減っているということなのか、あるいは違う状況があるのかということがあるので、皆の意見を伺えればと思っている。</p> <p>ごみの排出状況、あるいは、再資源化の記載について、変更とか、記載がおかしいといったことがあれば自由に発言してもらいたい。</p> <p>再資源化のところは、21ページだが、特にスラグの生成が大きく減少している。年間11,000トンあったのが、現在8,000トンに下がっているということである。</p> <p>集団回収量も、平成22年は10,800トンであったものが、平成26年には10,200トンと減少傾向にあるが、これは人口が少なくなっているのか、こども会等の状況なのか、何か理由が分かれば教えていただくか、あるいは少し追加の記載とかもできればと思うが、いかがか。</p>
A 委 員	18ページの集団回収についてだが、報奨金制度というのは、1団体において年間

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	回収量が1トン以上の場合ということでよいか。
事 務 局	そうである。
A 委 員	年間に1トン以上の回収量がある団体というのは、何団体くらいあるのか。
事 務 局	報奨金の支給対象になる年間1トン以上の団体数は、記載のとおりで、平成26年度だと417団体となっている。
A 委 員	登録団体自体はもっと多くあるということか。
事 務 局	そのとおりである。
A 委 員	報奨金額について聞きたいが、他市では1キロ当たりの回収、1キロ当たりいくらといった報奨金の制度もあると思うが、茨木市ではそういった考えはないか。やはり1トン以上あった方が良いのか。
事 務 局	現在の補助金制度は、1トン以上を支給対象にしている。今後、回収が少ない団体についても補助対象にするといった見直しを行うかどうかは未定である。
A 委 員	こども会で集団回収を行っている知り合いから、世帯構成の人数が減ってくるとどうしても集めにくくなるということを聞いている。1トン以上というように回収量が多い方が効果が出やすい点もあると思うが、小さい団体でも活動しやすいという意味では1キロ単位でも補助対象としてもよいのではないか。
事 務 局	団体の活動として回収してもらうのだから年間1トン以上としている。 年間1トンとは、1ヶ月で80から90キロ。月2回の回収だと半分の45キロ程度は集めてもらわないと団体活動とは言い難い。そのような理由から現行の制度とした時は年間回収量を1トン以上とした経緯がある。ただ将来的には見直す可能性もあると思う。
A 委 員	集めるのは業者か。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	老人会、こども会や自治会といった団体が行っている。
A 委 員	その回収は市が行っているということか。
事 務 局	回収は業者に頼んではいるが、団体として集めてもらうということである。
A 委 員	私は横浜市の例しか知らないのだが、横浜市の場合は、同じように登録されている団体があって、回収したキロ単位によって報奨金が支払われると、また同時に団体が契約している民間の回収業者が回収した分を換金するというような流れがある。
事 務 局	色々なやり方があるが、茨木市はこれを採用しているということである。
A 委 員	茨木市が回収業者に払うことによって、行政コストがかからないので茨木市はどうしているのか思ったのだが。
事 務 局	茨木市から回収業者への支払いはない。 茨木市の場合は、元々は市ではなく、自治会が集めていたのだが、自治会がないところもあるので、市でも回収するようにした。そうなると市の回収に出す人がいたりして、団体の回収量が若干減ったりする可能性があることは承知している。 1 トン以下については今検討しているが、先程も言ったとおり報奨金を渡す1つの団体としての活動としては、1 トン以上を回収してもらいたいと考えている。
A 委 員	1 トンとは、新聞紙でいうとどれくらいの量になるか。その1 トンの目安が、市民感覚からしてもどれくらい集めたら良いかが分からない。
事 務 局	始めから1 トン以上を集めるから登録するという事は難しい。報奨金がなくても回収業者に売却することによって売却益が得られるので、実際にやってみてということになる。 そのうえで、市から報奨金が交付されれば二重の収益になる。
A 委 員	了解した。
議 長	1 トンは1,000 キログラムだが、売却益が1 キロ 20 円くらいになるので、1 キロ

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	<p>あたりの報奨金額が4、5円となるとかなり高額になっている。平成10年から報奨金制度を実施しているが、報奨金額に変更はなかったのか。</p> <p>増額している。</p>
B 委 員	<p>私は、婦人会に入っているが、婦人会では毎月第2土曜日と決めて、古紙や布、あるいはアルミ缶の回収を行っており、市からは年間35,000円くらいの報奨金が交付されている。また、それとは別に回収業者に売却することによって毎月4,000円～5,000円の収益がある。</p> <p>ごみの量はかなり減少したと感じている。</p>
事 務 局	<p>先ほど質問のあった1トンの目安だが、1家庭で新聞の朝刊、夕刊あわせて1ヶ月で10キロ程度になるので、8家庭で1ヶ月80キロ、年間1トンになる。</p> <p>量が少ないと回収業者としても採算割れもありえるかもしれない。そういうことも合わせ、現行どおりとしているところである。</p>
A 委 員	<p>了解した。</p>
議 長	<p>報奨金については、地域の住民からすれば、資源物をしっかりと分別して集団回収を行った結果、報奨金があつて、それを町内の行事に使うことができる。</p> <p>また、行政から考えれば、あまり高いということであれば、行政コストの高騰を招くということになるかと思うので、その辺りについても計画の中で考えていければと思う。</p> <p>他に報奨金の額について意見があるか。もし何かあれば、また戻ることとする。</p> <p>それでは、家庭系ごみの集団回収が若干減少傾向にあるとのことについて、19ページの表によると、平成22年度10,857キロから平成26年度10,235キロというように順次下がっている。</p> <p>18ページの表では、布類、空き缶、その他は増加傾向にあり、紙類は年々減少していることが見て取れるが、この紙類の減少が再資源化量全体の減少の大きな原因となっている。</p> <p>この紙類の回収量を増やすため集団回収量をもう少し上げなければならないと感じている。</p> <p>紙類減少の理由としては、他都市では紙類を持ち去る行為があつたりするが、茨木市では条例で禁止していることから、どちらかという人口減少といったことで、</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>対策を行うことは困難ということなのか。</p> <p>その辺りについても意見があれば伺いたい。</p>
C 委 員	<p>未だに、軽トラで回収日に持ち去る行為がある。</p>
事 務 局	<p>紙類が減少しているのは、持ち去り行為もあるのはあるが、新聞の購読者が減少していることが原因だと考えている。</p> <p>先ほどの集団回収についてもそうだが、新聞を購読しなければチラシも入らないし、大きなものを買わないとダンボールも出ない。結果、古紙は減ってくるという状況である。</p>
議 長	<p>紙類の減少理由を記載した方が良いか。理由としては、生活様式の変化、情報化社会の進展により新聞等の購買者が減少しているといった辺りか。また持ち去り行為もあるとのことだが。</p>
事 務 局	<p>社会現象として新聞の購読が減っているといったことを理由として記載することは可能である。</p> <p>持ち去り行為については、条例で禁止し、罰則規定も設けてあり、また関係課職員によるパトロールを実施して対策を講じているところである。</p>
議 長	<p>職員によるパトロールの効果はどれくらいあるのか。また、条例施行はいつか。</p>
事 務 局	<p>条例施行が平成 19 年度である。パトロールの実績だが、直近の平成 26 年度では 72 回のパトロールを実施し、警告のチラシを手渡した者が 6 人、警告書を交付した者が 3 人となっている。</p>
議 長	<p>紙類の減少理由を記載するかどうか、また記載するとしたらどういった理由になるのか、事務局で検討してもらいたい。</p> <p>他に何かあるか。</p>
D 委 員	<p>少し戻るが、15 ページの環境教育について、うちの子も 4 年生になってごみ処理場に見学に行くとのことなので、距離的にも通っている小学校から近くにある茨木市環境衛生センターを見学すると思っていたら吹田市のごみ処理場に見学に行ったとのことであった。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	そこで、市内の小学校のうち、茨木市環境衛生センターに見学に来ている割合はどれ位になるのか教えていただきたい。
事 務 局	例年、5月から6月にかけて小学校の見学があり、平成26年度実績は32校中20校である。
議 長	一部の小学校が吹田市へ施設見学に行っているとのことだが、茨木市環境衛生センターで、全ての小学校からの施設見学を受け入れるのは難しいのか。
事 務 局	受入が難しいのではなく、学校の方針である。
E 委 員	14ページの表3.2.2スマイル収集の概要についてだが、これは新しい市の取組だと思うが、これを申し込んで登録すれば定期的に収集にきてもらえるのか。また、どれくらいの人が登録しているのかを教えていただきたい。
事 務 局	利用しているのは33世帯である。 平成26年4月から事業を開始して、これまで45件の申し込みがあったが、短期の申し込みであったり本人死亡といったことがあり、現在は33世帯が利用しているところである。 収集については、分別はしてもらったうえで、普通ごみ、資源物あわせて週1回の収集を行っている。
A 委 員	分別アプリについて、平成27年度に配信を開始するとのことだが、すでに実施しているのか。
事 務 局	まだ完成していない。
A 委 員	環境教育ということもあったので、例えば小中学生も扱えるような環境教育も含めてのアプリにしてはどうか。 分別だけではなく、他の機能を盛り込む考えはあるのか。
事 務 局	検討している。アプリの検討内容を紹介する。 現在、作成前であるが、小中学生にも簡単に扱えて興味を持ってもらえるようなアプリにしたいと考えている。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
議 長	<p>地域別の収集日カレンダー、また、ごみの分け方・出し方の検索等の基本機能とは別に、これは何ごみであるかといった簡単なクイズ等でごみの減量化・再資源化に興味をもってもらえるような機能を追加する予定である。</p> <p>早めに実施してもらいたいと思う。他になければ次に進むこととする。</p> <p>22 ページ及び 23 ページに、ごみ質分析結果の状況を記載しており、24 ページは、収集運搬の状況ということで、収集運搬の現況や車両台数等が記載してある。</p> <p>25 ページから 27 ページには、茨木市環境衛生センターには溶融炉が 3 炉あり、その処理量と鉄分、スラグ及び集塵灰といった残渣の量等が記載してあり、最終処分は大阪湾フェニックスで行っているとのことである。</p> <p>なお、溶融炉は平成 38 年度頃に更新する予定とのことであり、この計画が終わる頃に更新ということになる。</p> <p>ここまでで、これを聞いておきたいというようなことがあればお願いします。</p> <p>ないようなので次に進むこととする。</p> <p>28 ページ以降 30 ページまでが、他都市との比較ということで、まず、茨木市の実績と、人口が大体同じような都市の平均とを比較しており、次に大阪府内平均とを比較し、1 人当たりの処理であるとか、費用であるとか、家庭系ごみの 1 人当たりの排出量というのが、どんな状況にあるかを記載してある。</p> <p>府内での比較を見ると、1 人当たりのごみの排出量は 43 市町村中 41 位であるが、これは家庭系が 16 位なので、事業系が多いということである。</p> <p>31 ページからは、旧計画における目標の達成状況についての記載となっている。家庭系ごみは 20%減量するという目標に対し実績が 30%減量となっている一方、事業系ごみは 20%減量するとの目標に対し、実績が 11%減量ということで、事業系がまだ目標を達成できていない状況である。これは産業上、衛生上といった理由もあるかと思うが、実態としてはこうであるということである。</p> <p>このような状況を踏まえ、将来、どのようにやっていくかということを考えるべきと思う。</p> <p>家庭系については 32 ページにあるとおり平成 27 年の目標が 493 g としているが、平成 26 年の実績が 471 g ということですでに目標をクリアしている。これは先程申し上げたとおりである。</p> <p>資源化率では 34 ページにあるとおり目標が 24.6%であるのに対し平成 26 年度の実績が 21.2%ということで、まだ 3%ほど足りておらず、その部分を伸ばすということを考えなければならないということである。</p> <p>グラフが 35 ページにあるが、資源化率が徐々に下がっている状況の中で、平成</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>27年1年間で2%上がれば現計画が達成できたということになるのだが。</p> <p>今の計画をもし達成できなければ、必ずしも目標達成というようなことを言うよりも原因を明らかにすれば良いのではないかと思う。</p> <p>この原因については、先ほど、新聞等が少なくなっているとのことなどの話があったが、その辺りで古紙の資源化が低迷しているとか、事業系については減量目標が少し高過ぎたのではなかったかということもあるし、その辺りについて事業者の委員に意見があれば伺いたいと思っている。</p> <p>以上が35ページまでの内容であるが、資源化の量、また事業系ごみについてどうすればよいのか、審議というよりも議論してもらえればと思っているが、意見等はあるか。</p>
事 務 局	<p>事業系ごみについて補足がある。</p> <p>30ページの下の表について、人口1人1日当たりの総ごみ量が府内で41位に対し家庭系ごみが16位となっているので、事業系ごみが多いのではないかとのことだが、茨木市には、市場及び流通センターがあり、他市よりはその分負担が大きく1万トンくらいは違いがあるので、若干その辺りが影響している。</p>
議 長	<p>委員には市場の関係者はいないと思うが、市場においても食品リサイクルに取り組んでいると思うが。</p>
事 務 局	<p>市場には特に減量に取り組むよう働きかけを行って、食品リサイクルを推進してもらっており、2,000トン程度の減量効果があったと思っている。</p> <p>もう少し補足すると、35ページの資源化率についてだが、ここで言う資源化率とは古紙あるいは缶だけではなく、熔融炉では鉄分とスラグが出てくるが、どちらも資源として再生利用しており、それも含めての資源化率となっている。</p> <p>鉄分とスラグも再生利用するため、最終処分量も少なくなるので、資源化率は二十数%という高い数字になっている。</p> <p>この資源化率が下がっているということになるが、1人当たりのごみ量が減ると、それに伴って鉄分とスラグも減ることになり、ごみが増えないと資源化率が上がらないというおかしなことになっている。</p> <p>もちろんこれには矛盾があるが、実績としてはこういった報告となる。</p> <p>次回以降の議論になると思うが、新たな目標のところ、資源化率の目標値の内容を若干変えているので、その時にまた説明させてもらう。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
議 長	それはごみの組成分析を行ったうえでの見解か。資源化率が平成 27 年の一年間で 2%伸びるということは困難ということになるのか。
事 務 局	確かにごみの組成によって変わってくるが、例えば、鉄ばかりを廃棄すれば資源化率も大きくなるが、ごみの組成は大きくは変わらないので難しいところがある。
議 長	<p>分かった。</p> <p>事業系については、市場があって食品リサイクルを推進してもらっているとのことであった。また、家庭系は府内でも中位から上位辺りに位置しており、今後も良くなる方向に向かうのではないかと感じた。</p> <p>他に何かあるか。よろしいか。もしまた何かあれば、次回でも伺うこととする。</p> <p>次の 36 ページ、37 ページ、38 ページの取組の現状と課題だが、例えば、課題の 2 つ目に「さらなるごみの減量化に向けて、今後のごみ排出量の推移を見極め、近隣市の状況を調査し、住民サービスの維持を踏まえた上で、家庭系ごみ処理の費用負担のあり方についても検討する」としているが、ごみ処理の費用負担ということはごみ処理の有料化ということも想定しているのか、想定していないのかといったこともあるので、ここから次回の審議会でも検討し、課題等についてしっかりまとめていきたいと思う。</p> <p>それでは、予定の時間となったので、本日の審議会はこれで終了する。</p> <p>4 第 3 回審議会の開催日程について</p>
事 務 局	<p>次回の審議会の開催日時についてだが、10 月 28 日水曜日午後 2 時から、場所は市役所本館 3 階の防災会議室で開催する。</p> <p>なお、委員には後日改めて案内するので、よろしく願います。本日の審議会はこれをもって終了とする。</p> <p>5 閉会</p>